

# 令和6年度 学校自己評価システムシート（県立松伏高等学校）

目指す学校像	学力の定着及び向上と、専門的な技術・能力の伸長を図るとともに、幅広い社会性を身につけさせ、地域に信頼され貢献できる人材を育成する。
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程や学習指導計画及び授業の工夫・改善を進め、学ぶ意欲と学力を向上させる。</li> <li>2 キャリア教育を進め、高い進路意識を育み、進路希望を実現できた生徒の割合を高める。</li> <li>3 生徒会活動や学校行事の質を高め、部活動を活発化させる。</li> <li>4 規律を重んじ、地域に信頼され貢献する教育活動を推進する。</li> </ol>

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	成績優良者も多くいる一方で、生徒の学習面での自己肯定感が低い。「Matsubushi Eight Policy」を学習習慣にも結び付け、生徒の意識を高めていく必要がある。 観点別評価については、今年度が導入3年目となるため、引き続き検証していく。 生徒一人一台端末の導入に伴い、ICTの活用方法について、さらに実践を積んでいかなければならない。	学ぶ習慣と意欲の育成	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各教科で予習、復習の指導を粘り強く続け、家庭学習の習慣を身につけさせる。</li> <li>②基礎学力の定着が必要な生徒に基礎学力向上補習を実施する。また教務部と進路指導部の連携で進路補習を実施する。</li> <li>③図書館を更に利用しやすい施設とする。</li> <li>④特別委員会を中心に、各教科で評価方法や課題を検証し、職員全体が共通理解のもとで実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒が自習室や学習サポーターを活用するとともに、学習時間が増加したか。</li> <li>②進路補習の講座数、参加者数が増加したか。</li> <li>③図書館利用者、本の貸出数が増加したか。</li> <li>④評価の在り方や方法についての共通理解を深め、適切な評価を行えたか。</li> </ol>		
		ICTスキルの向上	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ICTに係る研修会を引き続き行い、教員のICT活用スキルの更なる向上を進める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①研修会等で教員のICT活用への意識やスキルの向上が進められたか。</li> </ol>		
2	スタディサプリを導入しているが、家庭学習習慣が定着していない。教科間、教員間で積極的な活用が必要である。 進路指導はきめ細かく取り組み、生徒一人一人の進路希望の実現に尽くしている。3年間を通して資格取得や進路活動に積極的に取り組める生徒を育てることが必要である。	進学・就職希望に応じた個別指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>①進学希望に対応した補習を実施し、模擬試験を活用して、進学指導を行う。</li> <li>②スタディサプリを活用して、進路意識を育てる。</li> <li>③就職希望者に適時な情報を提供するため、ハローワークや民間企業との連携、ICT機器を活用する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①補習内容の充実、補習参加者は増えたか。</li> <li>②活用により、生徒の進路意識は向上したか。</li> <li>③就職希望者の内定率100%を引き続き達成することができたか。</li> </ol>		
		各種検定や高度な資格取得の更なる推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>①情報ビジネスコースでの系統的な取組に加え、普通科の生徒にも積極的に資格取得に取り組ませる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①資格取得に取り組む生徒数は増加したか。</li> </ol>		
3	生徒会生徒中心に、生徒主体の学校行事が多くなってきている。今後は計画的に、かつ精選して活動していくことが課題である。 部活動では、積極的に活動する生徒が減っていく中で、各部が活動の軸をしっかりと考え、発信していく必要がある。	生徒会を中心とした生徒の主体性の伸長	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒会や委員会等の生徒を中心に、主体性を大切にしながら学校行事を作りあげる。</li> <li>②生徒会を中心に、分校との交流を増やす。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒会本部役員を中心とし、行事を計画的に、かつ精選して自発的な活動ができたか。</li> <li>②分校との交流機会が増えたか。</li> </ol>		
		部活動の活性化	<ol style="list-style-type: none"> <li>①部活動を県の方針に従い、計画的に実施する。</li> <li>②各部活動が活動の様子をHPで情報発信する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各顧問が、予定と実施を計画的に行えたか。</li> <li>②部活動のHPを活用して、活動報告が行えたか。</li> </ol>		
4	交通マナーについては、自分事として真剣に捉える指導が必要である。 生徒のコミュニケーション能力不足から起こる生活の躓きをなくすために、他者を思いやる心を育てていく必要がある。 地域連携については、長年の連携を大切に、今後も本校の教育活動の魅力を発信することで、地域に発信される学校づくりを推進する。	規範意識の育成と安全教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>①交通マナーの大切さを理解させるために、きめ細かく粘り強く指導する。</li> <li>②交通安全教室の実施やPTAと連携した交通安全指導を実施する。</li> <li>③いじめ等がないか早期発見するために、学校生活アンケートを毎学期実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①交通マナーへの意識は高まったか。</li> <li>②交通事故件数が減少したか。</li> <li>③アンケートの実施から、早期発見と予防が図れたか。</li> </ol>		
		地域貢献と情報発信	<ol style="list-style-type: none"> <li>①松伏町を中心に地域との連携を積極的に行い、地域貢献を通じて本校に対する理解を一層深める。</li> <li>②HPの担当チームを作り、更新を増やし、保護者や中学生、地域の方々に情報を発信する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①松伏町等が推進する事業を通じて地域・保護者との連携を推進できたか。</li> <li>②HPの更新回数や、更新内容を拡大し、本校の魅力を広く伝えることができたか。</li> </ol>		

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価		